

平成30年度

学校自己評価表（報告）

学校運営方針		学校運営計画		
「誠実で自立して在る若人の育成」のために、①自他の心と生命を尊重する精神の涵養、②継続的に努力する気力・体力の養成、課題解決能力の向上、③確かな学力の定着と進路希望の実現、を図る。				
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標		
医療専攻の1期生が卒業したが、これからも本校のキャリア教育の中心として成果が出せるよう、指導内容の充実を図るとともに、医療分野以外のキャリア教育へ応用を進める。 PTAや警察と連携した街頭指導を行うなど、交通安全指導に努めた。今後も改善できる方法を様々な角度から検討し、生徒が安全に通える環境作りに努める。 また、いじめの問題についても、生徒の訴えを確実に聞き上げ、組織的な対応ができるよう、教育相談やアンケートを充実させ、早期発見・早期対応に努める。	円滑な校務運営と教育課程の実施に努め、生徒の学習意欲向上と進路希望達成を支援する。	円滑な校務運営と教育課程の実施によって授業時数の確保と学習意欲向上を促す指導に努める。	継続的で組織的な進路指導体制の確立を図り、生徒の多様な進路希望の達成を支援する。	
	基本的な生活習慣の確立を促す中で規範意識の涵養に努める。また交通安全指導の徹底を図る。	部活動と学校行事の活性化を促して学校生活への満足度を高め、心身ともに健康な学校生活を送ることができるよう支援する。	基本的な生活習慣確立を促す指導を徹底する。	生徒の自主的・自律的な生活態度の確立を促し、規範意識の涵養に努める。
	PTA活動のさらなる活性化を図る。また、生徒の利用しやすい図書環境作りに努める。		部活動と学校行事の活性化を促し、自主的・意欲的に行動しようとする態度の育成に努める。	保健指導と教育相談体制の充実を図り、生徒が心身ともに健康な学校生活を送ることを支援する。
			懇談会の実施やPTAだより等の発行によって保護者との連携を深め、PTA活動の活性化を図る。	図書館の資料整備・充実を進めて、利用しやすい環境作りに努める。
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
円滑な教育課程の実施	円滑な校務運営と教育課程の実施によって授業時数の確保と生徒の学習意欲向上を促す指導に努める。	授業ローテーションを実施し、必要な授業時数の確保に努める。	A	
		授業変更等により、生徒の学習時間が確保できる体制づくりを行う。	A	
		他分掌・各学年との連携を深め、円滑な校務運営に努める。	A	
		チャイムと同時に授業態勢に入ることや、早めの教室移動を生徒に指導する。	A	
		生徒に家庭学習の重要性を自覚させ、学習習慣の確立を図る	B	
生徒の進路希望達成	継続的で組織的なキャリア支援体制の確立を図る。 生徒の多様な進路希望実現を支援する。	キャリア指導部と学年が連携し将来を見通したキャリア指導計画を作成する。	B	
		「進路のしおり」を作成し、各学年段階で必要な指導を継続的に行う。	B	
		生徒の進路希望実現に効果的な模試や教材の活用を検討・実践する。	A	
		医療専攻講演会等の実施をとおして、早期からキャリア意識を高める。	A	
		交通安全指導の徹底	A	
指導の徹底と規範意識の涵養	基本的な生活習慣の確立を促し、自主的な生活態度と規範意識の涵養を図る	登下校時の街頭交通指導・HRや全校集会を通じて交通指導を徹底する。	A	
		交通安全講話、バイク実技講習会、駐輪指導を実施し、交通事故防止を図る。	A	
		薬物乱用防止講話やインターネットを含む携帯電話に関する講話を実施する。	A	
		頭髪・服装検査を学期始めに実施し、全職員で指導の徹底を図る。	B	
		朝の声かけを継続的に実施し、遅刻の防止や挨拶の励行を指導する。	A	
部活動と学校行事の活性化	部活動と行事の活性化を促し、自主的・意欲的に行動する態度の育成に努める。	行事への積極的参加を促し、自主的・意欲的に行動する態度の育成を図る。	A	
		クラブ集会等を通じて、全校生徒に部活動への積極的参加を促す。	B	
		部活動を通じて、挨拶等の生活態度向上や集団行動の規範を身に付けさせる。	A	
		健康診断を着実に実施し、事後措置についても丁寧に指導する。	A	
		生徒の心身の健康について、職員間で情報を共有し協働して関わる。	A	
心身ともに健康な学校生活の実現	安全かつ快適な学校生活環境をつくる。	防災計画を確実に遂行し、地震・火災等への安全体制の徹底を図る。	A	
		学校内外の美化に努めるとともに、整美委員会の活発な活動を促す。	B	
		PTA理事との連携を深め、PTA諸事業への出席者の増加を図る。	A	
		PTA広報誌「かけはし」を年2回発行し、学校やPTA諸活動を紹介する。	A	
		大学視察訪問を実施し、保護者の進路意識の啓発・向上を図る。	B	
保護者との連携の推進	PTA活動の一層の活性化を図る	理事会等の実施をとおし、保護者との連携に務める。	A	
		資料の整備と利用の促進	A	
		図書資料の充実を図り、授業実施の支援と生徒の学習支援に努める。	A	
		図書委員会の活動がより活発になるよう、指導に努める。	B	
		将来予想される校舎改修に備えて、蔵書整理など館内の環境整備を行う。	A	
各学年での指導の充実	1 学年 生徒の自己実現のため、基礎学力の定着と主体的で規律ある生活態度の育成を図る。	生徒面談を綿密に行い、高い進路目標を持たせ、それに向けて努力させる。	B	
		生徒が新しい環境に円滑に適応できるよう、家庭と連携し支援する。	A	
		予習復習など家庭学習習慣の定着を目指し、基礎学力の向上を図る。	A	
	2 学年 進路希望の実現に向け、更なる学力の定着と、前向きで意欲的な生活態度の育成を図る。	自律した高校生になれるよう、学業と課外活動の両立に留意させる。	A	
		家庭と連携して、生徒が充実した高校生活を送ることができるよう努める。	A	
		卒業後のキャリア形成のため、学習習慣の確立を図り学力の伸長を図る。	B	
	3 学年 自己実現のための人間力を養成し、学力伸長と進路希望達成を支援する。	学業と課外活動のバランスが取れた、中堅学年に相応しい自覚ある行動を促す。	B	
		ガイダンスや個別面談により、生徒が進路等について主体的に考えるよう促す。	B	
		家庭と継続的に連絡をとり、生徒が自主的に学校生活を送れるように促す。	A	
成果	1年生では全体として目的意識を高められたほか、個々の生徒の課題に対して、家庭と連携して対応・支援することができた。2年生では医療専攻を含め、将来の進路選択について深く考えさせることができた。3年生では家庭と連携し、生徒の進路目標達成に向けた支援を行い、成果を上げた。	模試の有効活用と進路希望別補習の充実とにより、確実な学力伸長を図る。	A	
		継続的な情報提供や面接指導を行うことで、主体的な進路決定を促す。	B	
		進路ガイダンスと個別指導により、生徒の進路目標達成のための支援を行う。	A	
			総合評価 A	